【浦高の人工芝化プロジェクトを話し合う】

　11月7日(日)の午前10時から約1時間にわたり、浦高同窓会の野辺会長および香田副会長が、これまで人工芝化を推進してきた浦高スポーツ環境等整備応援プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の皆さんとこれまでの経過や今後の進め方についてオンライン会議にて話し合いました。

　そこで確認されたことは以下の内容です。

【趣旨】

校庭の硬い⼟では、転倒の際の擦り傷・切り傷はおろか、脳震とう・⾻折・脱⾅の⼼配が常に付きまとうことや、近隣への砂塵被害の防⽌などを目的に、浦高校庭の人工芝化のプロジェクトが進められている。

【経過】

1. 2019年に、浦高スポーツ環境等整備応援プロジェクトのメンバーと当時の小島校長により、「浦和高校グラウンド人工芝化による部活動活性化プラン」を作成し、埼玉県教育環境整備基金の申請・承認されて、現在の「ふるさと納税制度」を活用し、目標額が6,600万円で期間が2019年9月～2022年9月までの3年間（延長最大2年間）で寄付を募っている。

② 目標額6,600万円の積算にあたっては、プロジェクトで5社から参考見積もりを聴取して最安値であった金額を設定したもので、クッション性等を持たせるための工事費についてはスポーツ振興くじ（toto）の助成金を当て込み、総額1億円程度の事業費が組めるという見通しで県と協議を進めてきた。

【現状と課題】

　現状及び課題は大きく次の3点に集約されました。

1. 2021年9月現在の寄付金が3,140万円と2年経過した段階で半額程度しか集まっていないこと。
2. サッカー部OB会、ラグビー部OB会などでは会報を通じて呼びかけを行っているものの、様々な機会を通じての寄付の呼びかけが、コロナ禍の影響でできていないこと。

③「ふるさと納税制度」の手続きが若干煩わしいところもあり、理解がいただけない同窓生がいること。

【今後の対応】

　今回の話し合いにより、現在進めている「ふるさと納税制度」を活用した埼玉県教育環境整備基金を活用し、目標額6,600万円を全力で達成させなければならないことで、同窓会とプロジェクトが認識を一つにすることができました。

そこで、同窓会およびプロジェクト側では、今後次のような形でこの事業の推進を図ることを合意しました。

① 同窓会会員等が「ふるさと納税」を活用する11月～12月の早い時期に、同窓会会長および代表名で、地域職域同窓会代表者、同窓会理事及び代議員に充てて、現状説明と寄付の依頼を行う。

1. ふるさと納税制度の手続きが煩雑であるなどの意見に対して、分かり易いパンフレット等をプロジェクト側で作成してもらう。

③ 校長を通じて、現役生徒たちの人工芝化に向けての期待なども確認して、推進の力とする。

④ サッカー部OB会やラグビー部OB会では、引き続き積極的にOBに寄付の依頼を行い、個別の依頼なども実施する。

⑤ 2022年5月発行の同窓会報に特集を組み、寄付のチラシではなく会報本体に記事を盛り込み、全会員に周知を図る。